

75

NOTE BOOK

MADE BY KYOKUTO NOTE CO., LTD.
USED SUPERFINE FOOLSCAP MANUFACTURED IN JAPAN

明治の政治 日本帝国憲法

6年 3組

東海林 仁



大学 A 50



教育設備助成商品

1. 明治時代の政治を調べる理由

ぼくは、歴史が大好きで、それを調べるのも大好きだ。
だから、次に書く理由があって、明治時代の政治を
調べることにした。

。明治の政治が江戸時代の政治とどのように
変わったか。

。明治の政治から、大正、昭和の政治が、どのように発展
していくか。

。1学期にならった日本国憲法と、明治時代に作られ
た、大日本帝国憲法のちがう点、どこに
ちがったか。

。どんな理由でつくったか。

。明治時代の政治は、大日本帝国憲法と、大正、昭和の政治と、
ちがった点、どこにちがったか。

。明治時代の政治は、大日本帝国憲法と、大正、昭和の政治と、
ちがった点、どこにちがったか。

明治維新について

明治維新とはいつごろあったか

明治維新とはその名の通り、明治1年（1868年、慶応4年）に行われた。

② どこで行われたか

江戸を、東京と改め、日本の首都にし、江戸城を皇居にして、これらを中心にして明治維新がすすめられていった。

③ だれが中心になっ

明治天皇が中心になっ。て、江戸幕府をたおすために働いた公家出身の三條実美、岩倉具視、もと長州藩の木戸孝允、伊藤博文、山県有朋、もと薩摩藩、西郷隆盛、大久保利通、などが天皇を助けて働いた。

④ 何のため

江戸幕府がほろび、天皇中心の政治になり、新しい政治を始めるために

⑤ どういうことをしたか

五ヶ条の御誓文を発表した。

内容

1. 広く会議ヲ開シ万機公論ニ決スヘシ

1. 上下心ヲ一ニラテ盛ニ経綸ヲ行フヘシ

官武一途庶民ニ至ル迄、各其志ヲ遂ケルニ心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス

2. 旧来ノ陋習ヲ破リ、天地ノ公道ニ基クヘシ

3. 智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇威ヲ振起スヘシ

わかりやすくすると

1. これからは何事もみんな（大名たちだけのこと）でよく話し合えて決めた事をもとにして、政治を行なう。
2. 身分の高い人も、低い人も、力を合わせて仕事にむかう。
3. 役人も、筆人も、一般の人たちも、それぞれの願いがかなえられるような政治にしよう。
4. 何事も道理にあうやり方をしよう。
5. 外国の進んだ知識をおおいにとり入れて、国の進歩をはかり、国力を強めていこう。

この五ヶ条の御誓文は、新しい政府が天皇の政治のもとになる方じんをはきり打ち出すために作られたものであり、国民が持った「政府は変わっても、どうせ幕府と同じかてな政治を行なうだろう」という不安をとりぬくためのものでもある。

作った人は、越前藩の由利公正や、土佐藩の福岡孝弟、長州藩の木戸孝允が力を合わせて作った。

⑥ どうにいったか

今まで登場した人物について

明治天皇 <1852~1912 嘉永5~明治45年>

- (1) 第128代の天皇で維新後の日本の近代発展期の元首として、すぐれた王であったといわれる。
- (2) 孝明天皇の皇子で1867年1月、16才で即位された。その年に幕府が倒れ、維新の維新の改革が始まったがそれには天皇の意見が全くはいていなかったが、やがて絶対主義の天皇制が整えられるにつれ、天皇の力が強くなった。

三条 実美 <1834~71 天保5~明治4>

- (1) 幕末には尊王攘夷の先頭となり、維新後は、大政大臣になった公家。
- (2) 名門の公家で幕末には青年公家の指導者となり、長州藩と協力して攘夷を奨励した。朝廷が攘夷を止めさせた文久3年の政変では他の公家の公家と長州藩へ都落ちした。後に幕府を倒そうとする勢力が強まり、ついに天皇の政治にもとると京都に帰って新政府の中心人物となり、1871年~88年(明治4~21)まで大政大臣になった。

むずか | 言葉の意味

元首 = 国家や国民の代表になる人

絶対主義 = なんでも、完全でないとだめな考え

尊王攘夷 = 天皇を政治の中心におき外国の勢力を打ちはらうこと

岩倉 具視 <1825~83 文政8~明治16>

- (1) 幕末から明治維新に重要な役割を果たした公家。
- (2) 孝明天皇の家来だった。後に尊王攘夷論者となり、尊王攘夷の志士と連なっていて天皇政治の復讐の実現に大きな役割を果たした。明治維新後、右大臣となり、1871年(明治4年)から全権大使として、欧米諸国を視察した。帰国して、征韓論をおさへ、富国強兵の政策を推した。自由民権運動をおさへながら天皇の力の強い立憲君主政治の実現に努力した明治時代の専制的政治家である。

木戸 孝元 <1833~88 天保4~明治16>

- (1) 幕末の志士として活やくし、明治維新の三傑の一人。
- (2) 長州の人ではじめは、桂小五郎といいた。吉田松陰に学ぶ。そのあと江戸に出てけん術や洋兵法を学んだ。尊王攘夷運動につくし、王政復古の後、五ヶ条の御誓文の下書きをつくら。明治政府で大久保利通らと意見が合わず政府をやめた。

伊藤 博文 <1841~1904>

- (1) 長州の正士の家に生まれ、吉田松陰の教育を受けた。
- (2) 幕末維新のころ活やくし、政府に重くもちいられたヨーロッパの憲法を調査に行き、また内閣制度を作って初代首相となり、後にも四回首相になった。
- (3) 憲法発布や議院をひらくことに力をつくし、日清戦争後は下関条約を清国と結び、日露戦後には韓国統制となった。
- (4) 満州視察のときハルビン駅で暗殺された。
- (5) 明治時代の政治を大きく動かした。きびしい政治家であった。

西郷 隆盛 <1827~1877>

- (1) 大久保利通といっしょに薩馬藩で活やくし、江戸幕府をたおすことに力をいれた。
- (2) 王政復古の後、政府軍をいさいて反抗する幕府軍をうち、江戸城を平和のうちに明けわたさせた。
- (3) 明治政府にはいり、士族の利えさを考えて活やくしたが、征韓論にやうじて鹿児島に帰り、1877年(明治十年)に西南の役をおこして自殺した。

大久保利通 <1830~1878>

- 薩馬藩(鹿児島県)から出た明治時代の政治家。
- (1) 江戸幕府をたおす運動に加わり、王政復古の後、その手がうにより、明治政府の中いになった。
 - (2) 財政をつけもち、官営工場の経営や地租改正にあたり、岩倉具視らと外国を見てまわってからは、明治政府をひとりて動かすほどの幹才を特た。
 - (3) しかし、西南の役のあと不平の士族に殺された。

川島 有朋 <1838~1922 天保9~大正11>

- (1) 明治・大正の軍人。
- (2) 長州藩の下級武士の出身。
尊王攘夷運動をして、奇兵隊に参加した。明治維新後、陸軍に入隊し、さらに参議院参謀本部長になり、内閣大臣を経て陸軍大将に進んだ。
日清戦争のあと元帥となり、日露戦争中は参謀総長となった。前後二度総理大臣になった。
伊藤博文が暗殺されてからはかれとならぶものはいなくなり、代表的軍閥政治家だった。

廃藩置県について

かんたんにいうと

明治政府が藩をやめて府や県を置いたこと

いつ
1871年(明治4年)

だれが

明治政府

なぜのために

天皇が全国をおさめるというきまりをいっそうはっきり
させるために

どうやり

藩をやめて三府七十二県を置いた。
もとの大名は、すべて東京に軟禁させ新しい入を府知
事、県知事にえらんで地方の政治をおこなえさせた。

どうなったか

これによって、天皇を中心とした、政府のもとに、全国の
土地や人民が統一しておさわれることになって、政府の
力は強まった。

四民平等

かんたんにいうと

すべての国民も、平等にあつたことをきまりにした明治政
府の政策

いつ

明治の初期

だれが

明治政府

なぜのため

どうやり

江戸時代の士農工商(四民)の身分制度をやめ、国民は
すべて平等であるとした。

そして、新しく、もとの公家や大名を華族、もとの武士を
士族、農工商の士々を平民とよんだ。

そして、平民にも、結こん、職業、移住の自由があたえられた。
どうなったか

しかし、長い間続いた身分のちがいはなかなかなくなり
士族は平民をばかにし、平民が役人や軍人になっても高
地位につくのはむずかしいかった。

このような差別も太平洋戦争後ようやくなくなった。

富国強兵

説明

国をゆたかにし(富国) 強い軍隊をつくる(強兵)という明治政府のやりかた

いつ

明治時代

だれが

明治政府

なんのため

江戸幕府が外国と結んだ通商条約は、日本の国力が弱かったから日本にとってはいへん不利なものだった。そのため、明治政府を作った人々は、早く日本を西洋の国々におとなしい強い国にしようと考えたから

どうやり

そこで、地租改正(明治政府が行なった土地の税の改革)で、財政をたかめ、近代産業や強い軍隊をそだてあげることになった。

どうなったか

しかし、おかしな富国強兵のやりかたをすすめてきたため、国民の権利がおびやかされることなどいろいろな無理なことも行なわれた。

自由民権運動

説明

明治政府のわがままをうらやみ、議会政治をおこそうとする運動

いつ

1874年(明治7年)に始まる

中心人物

板垣退助、後藤象二郎

なんのため

板垣退助が後藤象二郎らと、明治政府に民権議院(議会)を開くように申し出たことから始まった。

どうやり(運動の行動)

このころ、西洋の民主主義や議会政治の考え方がしやうかいされ、また政府に不平をもつ士族や農民、商人がさあさをおこしていたので、これらの人々があつちあつちをするようになった。板垣らは、大坂に愛国社というをつくり、演説会や新聞などでごきんに意見を發表した。

政府の行動

自由民権運動に対し、政府は言論や集会をとりしめし、運動をおさえるようとした。

運動の行動

しかし、自由民権運動は、1890(明治23)年に愛国社が国会期成同盟というのになつたころ、とまごきんになつた。

結果

政府は、おそろしく半年後に議院を開くことを約束した。このあと、すぐ政党をついたが、運動がおおしにすすんでたため政府に、おさえられた。

大日本帝国憲法

6年生の1学期に日本国憲法というのを学んだ。
なぜ2つも憲法をつくったのか、どこがちがうのか調べていくことにした。

説明

1889年(明治22年)に発布された憲法のこと。明治憲法ともいう。

いつ

1889(明治22年)発布

中心人物

伊藤博文

なぜのため

1882年(明治15)に、政府は、国会の開設にそなえて憲法をつくることを決めた。

どうやったか

伊藤博文をヨーロッパに送り、各国の憲法や、それに関係のある制度を研究させた。

伊藤博文はドイツ(プロシア)の憲法について学んで帰って来た。そして、これを手本にして憲法を書き出した。

どうなっていたか

大日本帝国憲法は天皇が国民にあたるというかたちをしたので、欽定憲法といわれた。

大日本帝国憲法は1889(明治22)年に発布された。この憲法によって、国民はある程度の自由が保障されたが、いまの日本国憲法に比べると、基本的な権利は、じゅうぶん尊重されていなかった。

また、天皇に主権があり、軍事、外交なども天皇がこしきするようになっている。しかし、憲法のもとで、議会がきめられる

た法律によって政治がおこなわれるようになったりは大きな進歩だった。

改められた新しい政治

内閣制度をつくる

1889年憲法にしたがって政治をおこなうため、内閣の制度がつけられた。内閣は総理大臣を中心として10人の大臣でつくれる。伊藤博文が第一代内閣総理大臣になった。

帝国議会

国会は帝国議会といわれ、皇族、華族と天皇の任命したものとで構成された貴族院と、国民の代表者で構成された衆議院とからなっていた。第1回の議会は1890(明治23)年にひらかれた。

第1回の総選挙のころ、衆議院議員の選挙権のある人は、国税15円以上をおさめる25才以上の男子にきまっていた。

ここで、大日本帝国憲法と日本国憲法のちがいをみるために日本国憲法をもう一度くわしく調べることにした。

日本国憲法

1945(昭和20)年、太平洋戦争に負けた日本は政治を根本的に改めようと考えた。そして、新憲法をつくることになった。新憲法は、1946年11月3日に公布され、上一年の5月3日から実施された。これが日本国憲法で、民主主義による政治のちもとになっています。

日本国憲法の特徴

1) 主権在民

国をおさめる最高の権利(主権)が国民にあることをはききと定めている。これは、民主政治ちもとになる考え方で、国民すべてが自分たちの幸福を実現するために、政治をおこなうということ。

2) 象徴としての天皇

大日本帝国憲法では、主権は天皇であると、されていたが、日本国憲法では、天皇は日本国民のちとまりのしるし(象徴)であると定められている。そして、天皇は国の政治についての権利をもちないで、あらかじめ定められている内閣総理大臣、国会、司法、法律や条約の公布などのことを憲法にしたがうことになっています。

3) 基本的な権利の尊重

人間が生まれながらに持っている権利を、おかしことのできる永久の権利であると定められている。大日本帝国憲法でも、人間としての権利は、いづらか認められてはいたが、法律によって制限できるようになっていた。

4) 平和主義

わが国は永久に戦争をしないう(戦争放棄)ときめ、そのため軍隊をはじめ、戦争に利用されるような武力は、いさいい持たないことをさだめている。このような平和主義は、どこの国の憲法にも書かれていないので、日本国憲法が世界にはこるこができる特色のちつである。

大日本帝国憲法と日本国憲法のちがい

公布	文	裁判所	内閣	国会	国民の義務	国民の権利	軍備	天皇	手続	成立
二月十八日	明治二十九年	大法院	内閣	帝国議会	納税・教育・兵役の義務がある	納税・教育・兵役の義務がある	陸海軍をもち、いさいい	天皇がつかうて、国民のち首である	天皇がつかうて、国民のち首である	大日本帝国憲法
五月三十一日	昭和二十六年	裁判所が独立して	内閣が独立して	衆議院と参議院	納税・教育・勤労の義務がある	納税・教育・勤労の義務がある	戦争をしない	天皇がつかうて、国民のち首である	天皇がつかうて、国民のち首である	日本国憲法

まとめ

1. 明治維新

天政復古がかり、天皇中心の新しい政治にするため

感想

五ヶ条の御誓文などは、失しかに江戸幕府がほろび、新しい政治になてきたということがわかるが、特にその身分の高低も、依いとも力を奪わせて任事にはけもうと云うのでは、四民平等を調べたらなかなかあるまいような気がする

2. 廃藩置県

明治政府がそれまで、藩をやって、代わりに府や県を置いたこと。

感想

たいていいい考えたと思う。それに、支那を置いたりして、此の政治をやらせたということは、そうとう現在の政治に近くな、たという気持ちがある。

3. 四民平等

すべての国民を平等にあつかうことをきりにした明治政府の政治の案

感想

ぼくは、今はあたりのことなのだから、そうなるのがあたりまえだと思った。むしろ、まえまでそうだったから、くせがわけないなんというほうがおかしいと思った。

4. 富国強兵

国を豊かにし、強い軍隊をつくるという明治政府のやりかた。

感想

国を豊かにするということには賛成だ。そういう努力があたり、今のようになつて日本ができたんだろう。しかし、強い軍隊をつくるということには賛成できない。

5. 自由民権運動

明治政府のわがまをうちやぶり、議院政治をおこすという運動

感想

運動を始めてから、けい察や政府の防害をうけながらも最後まで運動をつけて、ついに成功したのには感心する。そして、うそだともいわれるが、板垣退助が殺されたとき「板垣死すとも、自由は死せず」という言葉は、すばらしいと思う。

★ 日本帝国憲法

国会を開くためにそなえてつくられた新憲法。又は明治憲法ともいわれる。

感想

あまり、いい憲法とはいえないがすばらしい進歩だと思う。でも、これはドイツ（プロシア）をまねて書いたものなのだから、そのころのドイツもあまりいい憲法じゃないなと思った。でも新憲法はつくれたもの、主権は天皇にあり、ろくに選挙もできない。しかし、憲法のもとで国会を開いたということは近代化になつたような気がする。

大日本帝国憲法と、日本国憲法をくらべてみてつくづく感じ

だが、今の日本国憲法はすばらしいなと感じた。
とくにすばらしいのはやはり戦争放棄だ。これは本当にすば
らしいと思った。

しかし、まだまだ とか 2 点 がある よう な 気 が する。失えば
公害問題や交通戦争などだ。失えば、ぼくの考えだが
公害などは、ガスや油を集めるそうちを空工場につけるとか
いづういづうなミミを、政府も努力すれば、なくなるのでは
ないだろうか。

交通では日本は土木事業にいちばん予算をつかっているよう
だが、国道なんかをたくさんつくっても、失しかに交通機関は、
発達するが、それにつれて、ますます交通事故はうえるだ
ろう。だから、国道建設と同時に歩道橋なんかをつくら
らうだろう。しかし、国にも予算というものがある
のだから、そう、うまは、いかならう。でも、早くそういう日
が実現されたい。